

第2回 生死一大事血脈抄

※全2回の講座の配信は、ともに10月12日(月・祝)まで延長されています。

そして、私たち衆生が、生死一大事血脈を受け継ぐために、信心の姿勢について、3点述べられます。第1に、仏法と衆生の三つに違いがなと信じ、唱題すること。第2に、三世にわたる不退転の信心。第3に、異体同心の団結で題目を唱え抜くことです。続いて、師弟の宮縁の深さを教えられた上で、生死一大事の血脈とは「信心の血脈」であることを示し、本抄を結ばれています。



(『生死一大事血脈抄講義』)

め。「在々諸仏土、常与師俱生（いたるところの諸仏の土に、常に師とともに生ず）」、よも虚事候わじ。

（『未来の希望』『正義の走者』に贈る）

今、各国、各地域の創価学会員も、皆、この「存在諸
仏士諸与師俱生」（全1338、新1776）の一節を
胸に刻んでいます。広宣流布の大使命を果たさんかため
に、この愛護世界に、生死・生死と師弟永遠の生命の旅
が続くことを、深く熟願しているのです。地球規模での
「普与師俱生」の時代となります。常葉我々の歡喜の
境涯を体得しゆく連帯はさらに、大く広がっていくこ
とを信じています。

[illegible]